

# 第68回全国こけし祭り審査講評

## 【文部科学大臣賞・全国こけし祭り会長賞】・・・・・・・・・・櫻井尚道

尚道は伝統こけしを現代においてどのように製作すべきか、その魅力をどう表現すべきかをよく心得ている。そのため作られたこけしには伝統こけしとして見るものを引き付ける魅力がある。こうした作家性を備えた製作の姿勢は今後の工人の一つの方向性を示した可能性もある。出品されたこのこけしは甚四郎の型であるが、甚四郎の型を通しての尚道の自己表現への挑戦である。

## 【国土交通大臣賞】・・・・・・・・・・陳野原幸紀

幸紀の糸松型はすでに定評があるが、幸紀は多くの元となる糸松のこけしに挑戦して、それぞれの持ち味を十分に再現できるようになっている。糸松の作風はすでに幸紀の体質となっているのかもしれない。そのなかでもこの糸松型は、型を写しながら幸紀自身の持ち味を発揮していて、今日のこけしとしても高い水準になっている。

## 【林野庁長官賞】・・・・・・・・・・早坂政弘

このこけしの元となった松之進は「らっここれくしょん」蔵の明治期の作品で、表情は怪異ともいえるようなユニークなこけしである。胴の模様は退色してほとんど見えない。政弘はこのこけしを心眼で凝視し、その胴模様も復元した。完成したこけしはもとの松之進の怪しげな迫力も十分に再現できており、見るものに対しても緊張感を要求するような作品となっている。初期のこけしには可愛さを超えた神秘性も必要であったが、この作品はその神秘性の再現にも成功した。

## 【東北経済産業局長賞】・・・・・・・・・・鈴木敬

高橋豊吉の型に挑戦した工人は多くいた。しかし様式を写しただけの工人も多かった。ただ、高齢になってもこけし作りを続けざるを得なかった豊吉の心情を、その必ずしも走らない筆やその境遇からくる哀愁までも追及して再現した作者は多くはない。この敬の豊吉型を見てみるとその豊吉の心情にまでも迫ろうとしている姿勢を感じる。

## 【東北森林管理局長賞】・・・・・・・・・・大沼秀則

秀則は地道に祖父の大沼誓の型を作り続けていて、すでに安定した作風となっている。祖父の誓は高橋勘治について木地を学んだ工人であった。秀則のこけしは勘治・誓・力の系譜に従いながら、本人の性格を反映した破綻のない穏やかな作品となっていて、見るものに安心感をあたえる。

## 【審査員奨励賞】・・・・・・・・・・荒川洋一

高齢にもかかわらず常に挑戦精神を持ち続け、各地のこけしコンクールなどに出品も続けている。その作品にはなにか新しい工夫があり、その創造意欲、製作意欲は衰えていない。蛸坊主の多くのこけし工人にも刺激となっている。

## 【審査員奨励賞】・・・・・・・・・・菅原修

本流の鳴子から離れた地で、河村辰治、清太郎の鳴子系の型を地道に作り続けている。明治期に鳴子から離れて製作が始まったこけしを再現継承しているのは貴重である。佐藤こずえ、斎藤祥子、岡本雄という後継者を養成し、この系譜の存続に大きな貢献をしている。